

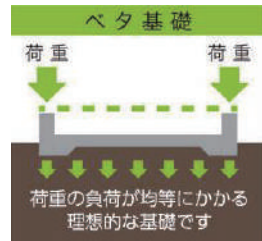
# 在来軸組工法

## 基礎 … 建物の安全性を向上し、湿気によるカビの発生を抑制

### 高耐久ベタ基礎

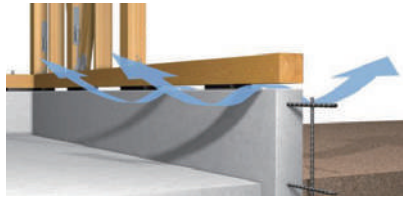


不同沈下に強い鉄筋コンクリートベタ基礎を採用しています。

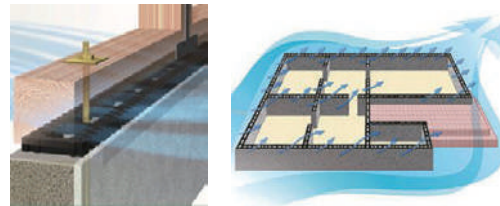


ベタ基礎は、一枚の大きなコンクリートの板の上に建物が載ることによって、地盤に対し家自体の荷重を均等にかけることができます。そのため、不同沈下の心配も少なくなります。

### 基礎パッキン工法の全周囲換気方法



基礎と土質土台をしっかり絶縁することが住まいの高耐久化につながります。



風上から風下へ、床下を自然換気で風が通り抜ける為、湿気がこもらず、シロアリを寄せ付けない環境を保ちます。

## 剛床工法 … 地震・台風時に強い床構造

### 水平面に剛床パネルで強度を確保



壁の構造を強くしても、床の剛性がなければ家は強くなりません。24mmの構造用合板を使用することで、建物のねじれに強く水平剛性が高く、耐震性能や耐風性能の向上に寄与しています。

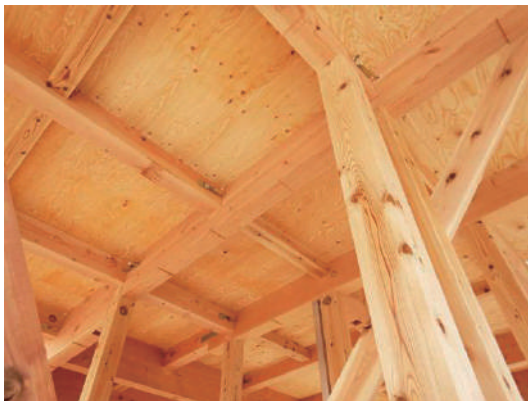
### 1階床：構造用合板 24mm



### 2階床：構造用合板 24mm

## 構造躯体 … 地震から家族と暮らしを守るために

### 在来工法



在来工法とは、日本に古くからある伝統工法を発展させたもので、柱と梁を組み合わせて建物を組み立てていく方法です。長年に渡って日本の気候風土の中で発展してきたこの工法は、様々な点で日本の環境に適した工法となっています。

## 最高等級「耐震等級3」取得 ◆ 基準値の1.5倍の耐力壁量

昭和住宅の家は、地震に強く、ずっと安心して長く暮らせる家を提供する為に、一邸一邸「構造計算」を実施し、最も厳しい基準をクリアした「耐震等級3」の耐震性能です。



耐震等級とは国が定める地震力に対する倒壊・損傷のしにくさを3・2・1等級であらわしたもので、3等級は、耐震等級1の1.5倍の耐震強度となります。

※プランによっては耐震等級が取得できない場合もございます。詳しくは担当者へお尋ねください。